

校 園 別 研 究 目 標

「校園別研究目標」は、校種別に各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動などの課題を示したものである。

学習指導に当たっては、幼児・児童・生徒一人一人の実態を的確に把握し、個々の状況に応じた指導・支援を行うために、学習活動、学習形態、評価方法及び教材・教具などを工夫することや、幼児・児童・生徒一人一人が意欲をもって自ら考え、判断し、表現できるような指導方法・指導体制の工夫改善を図り、学び方を身に付け、学ぶ楽しさを実感できる授業の展開に努めることが重要である。

また、小中一貫した教育をはじめとする校種間連携を一層推進するため、全ての教科・領域において、校種間の円滑な接続を図るための研究に努めることが大切である。

◇ 中 学 校

(1) 国 語

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域の特性を生かしながら、社会生活に必要とされる多様な言語活動を通して、国語の能力を身に付けることができる指導方法について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、小・中学校の9年間を見通した学習の系統性を重視し、生徒の実態及び習熟の程度に応じた指導方法について研究する。

ウ 伝統的な言語文化に親しむ態度や国語の特質を理解する力を育てるために、古典に親しむ態度を育成する指導方法、生活に役立つ書写の指導方法について研究する。

エ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、目標に準拠した評価を行い、指導と評価の一体化をめざした評価計画、指導内容や生徒の学習状況に応じた評価の方法について研究する。

(2) 社 会

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、学習内容を厳選して構成するとともに、その範囲や程度に十分配慮しつつ事項を再構成するなどの工夫をして、適切な課題を設けて行う学習について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、学校や生徒の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導、教師間の協力的な指導など、生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう指導方法や指導体制の改善について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断・表現」「資料活用の技能」「社会的事象についての知識・理解」の各観点に基づく目標に準拠した評価のあり方について研究する。

エ 社会科の目標を達成するために、小学校社会科の内容との関連及び各分野相互の有機的な関連を図るとともに、地理的分野及び歴史的分野の基礎の上に公民的分野の学習を展開する教科の基本的な構造を踏まえた指導計画について研究する。

(3) 数 学

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、生徒が目的意識をもって主体的に取り組む「数学的活動」を各領域で行い、数学的な表現を用いて根拠を明らかにし筋道立てて説明し伝え合う言語活動のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、一人一人の生徒が様々な思考や創意工夫を行い、意欲的な追究を継続することができるように、学習内容の習熟の程度に応じた指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、「数学への関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」の観点別に、目標に準拠した評価を行い、指導と評価の一体化についてさらに研究を進める。

(4) 理 科

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、科学に関する基本的概念の一層の定着を図るとともに、自然の事物・現象の中に自ら問題を見だし、目的意識をもって観察・実験を行い、結果を分析・解釈し表現するなどの科学的に探究する学習指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、科学を学ぶ意義や有用性を実感させ科学への関心を高めるとともに、生徒の興味・関心に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れた指導など、指導方法の改善について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、小学校との接続に配慮し、科学の基本的な見方や概念を柱として内容を構成するとともに、目標に準拠した評価のあり方や指導と評価の一体化について研究する。

(5) 音 楽

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、豊かな音楽体験を積み重ね、音楽を愛好する心情を育て、音楽に対する感性を豊かにする指導方法について研究する。

イ 音楽文化について理解を深め、豊かな情操を養うために、校種間連携の機会などの多様な活動場面を通して、音や音楽への興味・関心を高め、創意工夫して表現し主体的に鑑賞する能力を育てる指導方法について研究する。

ウ 個に応じた学習指導を展開するために、題材目標の設定や教材の工夫・改善を行うとともに、生徒一人一人のよさを生かした指導と評価のあり方について研究する。

エ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導と評価の一体化をめざした指導計画・評価計画、指導内容や生徒の学習状況に応じた評価の方法について研究する。

(6) 美術

- ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、一人一人の生徒が自ら確実に身に付けていくことができるよう適切な指導をするとともに、表現教材の開発や理解を深めるための多面的な鑑賞指導及び4観点をふまえた効果的な評価のあり方について研究する。
- イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、学習内容について調和のとれた指導計画の作成、生徒の実態に応じた題材の設定、ICT機器等学習環境の整備を行うとともに、指導方法について研究する。
- ウ 美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うために、行事との関連や大阪の教育資源の活用、我が国の美術文化をはじめとして、諸外国の美術や表現との出会い、学校・保護者・地域・校区小学校などとの連携など多様な活動場면을研究する。

(7) 保健体育

- ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、発達の段階や運動の特性・魅力に応じて、自らの運動の課題を解決するなどの学習を行うとともに、運動に関わる一般原則や運動に伴う事故の防止、健康・安全について科学的に理解できるよう指導のあり方について研究する。
- イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、生徒一人一人の体力や体の状態を把握したうえで、体力の向上を図る能力を育て、心身の調和的発達が図れるよう運動の計画を立てさせる。また、個人生活における健康・安全に関する理解が図れるよう研究する。
- ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、具体的に設定する評価規準、評価方法及び評価時期等について研究する。

(8) 技術・家庭

- ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、社会の変化や新たな課題に主体的に対応しながら実践的・体験的な学習活動を通して、家族と家庭生活の役割、それに必要な基礎的・基本的な知識と技術の習得を図る。また、それらを活用して課題を解決するため、工夫し創造する能力と実践的な態度を育成するとともに、他教科等との連携を図り、各分野の指導内容と指導のあり方について研究する。
- イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、ものづくりや衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生徒の興味・関心や発達の段階に応じた効果的な題材の開発と指導のあり方について研究する。また、各項目での学習内容を基礎とした「生活の課題と実践」との系統的な指導計画について研究する。
- ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導方法の改善と工夫を図り、指導と評価の一体化など、評価のあり方について研究する。

(9) 外国語

- ア 英語の基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、指導内容や指導法の工夫改善を行い、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態

度を育て、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」のコミュニケーション能力を統合的に養う学習のあり方について研究する。

イ 個に応じた指導のあり方を工夫するために、生徒の実態に応じ、既習の学習内容を繰り返し指導し学習の深まりをめざす指導のあり方について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、「CAN-DO」リスト形式での学習到達目標を設定の上、生徒一人一人の成果を確認し、指導に生かして、確実に生徒の力を伸ばしていくとともに、生徒自身が改善の努力目標をもち、自己評価能力を育て、自力で学ぶ力を育成していく評価のあり方を研究する。

エ 小学校における外国語活動との関連を図るために、小学校における外国語（英語）活動を通じて培われた一定の素地をふまえながら、中学校での英語教育への円滑な接続が実施できるよう小学校との連携のあり方を研究する。

(10) 道 徳

ア 人間尊重の精神を更に深化させ、生徒の内面に根ざした道徳性を育成するために、道徳教育の全体計画では、道徳教育の要としての道徳の時間の役割と重要性をふまえつつ、教育活動全体を通じて行う道徳教育との関連を生かした指導の充実とともに、計画そのものに具体性をもたせ、教育活動全体において生徒の内面に根ざした道徳性を育てる指導の充実を図るとともに、道徳的実践につながる道徳教育のあり方について研究する。

イ 生徒が自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、道徳の時間の年間計画では、いずれの学年でも内容項目を全て取りあげて計画的に位置付けながら重点化を図る。また、道徳の読み物資料を活用した授業では、学習指導要領に基づいて、生徒自らが人間としてよりよく生きる深い学びを獲得できるよう、資料分析を行うとともに発問を工夫し、生徒との対話を大切にしたい授業のあり方について研究する。

(11) 総合的な学習の時間

ア 自ら問題を解決していく資質や能力を育て、自己の生き方を考えることができるようにするために、横断的・総合的な課題（例えば、人権、平和、国際理解、情報、環境、福祉・健康など）や生徒の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて、内容設定の目標や各教科等の学習との関連などの全体計画を明らかにし、学校の実態に応じて創意工夫された探究的な学習活動が展開できるよう研究する。

イ 生徒の学習意欲をより高め、主体的・協同的に取り組む学習態度を育てるために、体験的な学習や問題解決的な学習の積極的な導入、グループ学習や異年齢集団による学習などの多様な学習形態の工夫、校区小学校との内容連携や地域の人々の協力を得た指導体制の工夫、地域の教材の活用、評価のあり方などについて研究する。

(12) 特別活動

ア 学級活動を通して、望ましい人間関係を形成するために、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育成する活動について研究する。さらに、所属する集団・社会の充

実・向上のため、教科等で身に付けた資質・能力を活用し、意見の違い・多様性を生かしつつ集団として意見をまとめていく活動（アクティブラーニング）についても研究する。

イ 生徒会活動を通して、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度を育てるために、学校生活の身近な問題を取りあげ、生徒全員の問題として、その解決を図るような主体的な活動を研究する。

ウ 学校行事を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるために、学級活動や生徒会活動の指導、また、各教科、道徳、総合的な学習の時間などの指導、更に、小学校における特別活動の指導との有機的な関連を図る学校行事の充実について研究する。

(13) 特別支援教育

ア 生徒の自立への可能性を最大限に伸ばすために、学校の教育活動全体を通じて、共に育ち共に学びあう交流及び共同学習を進め、生徒の経験を広め、社会性を養い、好ましい人間関係を育てる効果的な指導・支援の方法について研究する。

イ 個に応じた指導・支援のあり方を工夫するために、支援を必要とする生徒の実態把握に努め、合理的配慮の観点をつまみ、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成、活用し、発達障がいを含め多様化する一人一人のニーズに応じた具体的な指導・支援方法について研究する。

ウ 生徒の実態を的確に把握し、支援を充実するために、特別支援教育コーディネーターを核とした校内支援体制の充実、特別支援学校のセンター的機能の活用、関係機関との連携のあり方などについて研究する。

エ インクルーシブ教育システムを構築するために、障がいのある生徒と障がいのない生徒が共に学ぶための学習環境整備として、ユニバーサルデザインを取り入れた指導・支援のあり方について研究する。

(14) 保健教育

ア 心豊かに生きようとする力を養うために、生徒の一人一人が自己肯定感をもち、よりよい人間関係の構築が図れるよう、学校・家庭・関係諸機関との効果的な相互連携のあり方や、健康相談活動について研究する。

イ 健康に対する関心を高め、疾病などについての科学的な理解を通して、適切に判断し行動できる資質や能力を養うために、保健指導や保健学習はもとより、関連する教科や特別活動の時間などを活用した健康教育の充実と指導方法について研究する。

ウ 生徒が安全に学校生活を送るために、学校管理下での災害の予防に関する短期的・長期的展望による指導内容を充実させ、さらに自然災害発生時の対応と生徒の心のケアについて研究する。

(15) 生活指導

ア 生徒理解を基盤とした生活指導を推進するために、「いじめ」「不登校」をはじめとする

生活指導上の諸問題について、人間尊重の教育を一層推進する観点から生徒理解に努めるとともに、教育全体に関わる基本的な問題として正しく受けとめ、全ての教育活動の中で機能する生活指導のあり方と家庭・地域・関係諸機関との連携について研究する。

イ 一人一人の生徒を生かした集団の育成を図るために、生徒の生活背景を正しく把握したうえで、生徒の願い、悩み、不安を単に個人の課題としてではなく、所属する集団の全ての生徒が自らの課題として正しく受けとめ、自主的に判断し、課題解決に向けて、主体的・創造的に働きかけることのできる集団を育成する指導のあり方について研究する。

ウ 小学校・中学校・高等学校の連携に基づく生活指導体制を確立するために、保護者や地域社会の願いを正しく受けとめ、小学校・中学校・高等学校相互の連携を密にし、一人一人の生徒の成長・発達に即した一貫性のある効果的な指導のあり方について研究する。

(16) 学校図書館教育

ア 読書センターとしての学校図書館。豊かな感性を育成するため、学校図書館の活性化を進め本に触れ、読書に親しむ態度を養い、日常生活における読書活動を活発にする方法について研究する。

イ 学習・情報センターとしての学校図書館。生徒があらゆる学習に主体的に活用するため、資料や情報の収集・選択・活用能力を育成する学校図書館の運営のあり方や利用指導の方法について研究する。

(17) 視聴覚教育

基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成のために、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動などの指導において、視聴覚教材・ICT機器を活用するとともに、視聴覚教材・放送教材・ICT機器の特性を生かした利用方法などについて研究する。

(18) 進路指導

ア 生徒が自らの個性を伸ばし、自己実現をめざして、自己の生き方を考え、将来に対する目的意識をもって主体的に進路選択ができるようにするために、進路指導の目標を明確にし、生涯にわたる系統的な指導内容、3年間を見通した指導計画などについて研究する。

イ 進路について目的意識を高めるために、進路に関わる体験活動、進路情報・資料を活用した学級活動や進路相談との関連を図り、ガイダンス機能の充実について研究する。

ウ 社会の一員としてのあり方や興味・関心に基づく勤労観・職業観を育成するために、生徒一人一人が将来の働き方・生き方を主体的に考え行動できるよう、「育成すべき能力」「達成すべき基準」を示しつつ、生き方や進路に関する体験的な学習を通して、実社会で働く人々からの支援や、地域社会と連携した指導方法など、系統的なキャリア教育の進め方について研究する。

(19) 情報教育

情報教育の深化・充実を図るために、各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動などの目標や内容をふまえ、適切な情報手段やICT機器を利用しながら、自ら課題を明

確にし、解決する能力や態度を育てる指導方法について研究する。

(20) 新聞教育

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図るうえで必要な言語環境を整え、生徒の言語活動の充実を図る方策について研究する。その際、新聞を情報の収集・摂取の有効な言語環境として、各教科で新聞の情報摂取から情報創造、情報伝達の指導過程を組織する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、学校や生徒の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、教師間の協力的な指導など指導方法や指導体制について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導の成果だけでなく、指導の過程における学習に対する努力や意欲などを総合的にとらえる評価のあり方を研究する。